

在庫金額から考える会員薬局の医薬品備蓄状況 (2026年7月20日船橋薬剤師会調査)

薬局の医薬品備蓄状況を医薬品の月平均使用量と棚卸時の在庫量から備蓄状況を計算した。
①年間の医薬品使用量（金額）を集計し、それを12で割ることで月平均使用量Aを算出した。
②同会計年度の棚卸時の調剤用医薬品総在庫量B（棚卸金額）を調査した。尚、棚卸時は経営的には薬局の在庫量は一番少ないと考える。
会員各薬局に $B \div A \times 100$ を計算してもらい、結果をグラフで表した。100%が理論的な1か月使用量と在庫量が一致すると考える。
（会員数：156 回答数：71 回答率：45.5% 1件のみ200%を超えているのでグラフから除外した。）
発災時から2週間分の調剤用医薬品の備蓄を考える際、45%の備蓄量であれば対応できると考える。（14日/31日）
94%の薬局には、2週間以上の調剤用医薬品の備蓄があると考えられる。（破線内）

